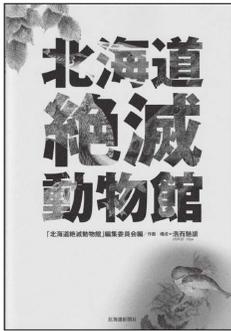


◆本の紹介◆

『北海道絶滅動物館』
「北海道絶滅動物館」編集委員会編／作画・構成
浩而魅論
2024年3月16日発行，B5判，160頁
ISBN: 978-4-86721-125-0
2750円（税別），北海道新聞社



本書は、「北海道の古脊椎動物化石」を扱っており、地質時代では中生代白亜紀（約7000万年前）から、現在までの自然史の変遷を解説している。編集委員6名や執筆者4名には、北海道出身者あるいは北海道に在住する研究者で構成されており、北海道にこだわっている本である。なぜ北海道なのかは、本書を読めば納得するように構成されている。とにかく北海道には、これまで古脊椎動物化石がたくさん産出しており、その研究成果を基に、北海道の過去の古脊椎動物たちの姿、当時の古環境をわかりやすく再現している。

巻頭の「はじめに」「北海道の成り立ちと古生物た

ち」の項目では、一般の方が理解しやすいように北海道での古脊椎動物の産出分布や復元図、さらに中生代白亜紀から新生代鮮新世までの北海道周辺の海と陸の推移などが図やイラストを用いて、説明している。本書は3部構成であり、第1部恐竜時代、第2部鳥獣時代、第3部氷河時代からなる。各時代の産出された古脊椎動物の46種が解説されている。復元図が描かれており、その化石の解説もイラストを交えて、理解しやすいように書かれている。各地質時代の生息していた当時の古環境図が描かれており、読書に興味を持たせるようにしている。随所に、古脊椎動物の骨や歯などの化石の実物大が細密画として掲載され、読書には親切である。巻末には、「化石ワールド北海道へ出かけよう！」として、道内の自然史博物館の施設がすべて紹介され、またいくつかの博物館、ミュージアムセンター、記念館、郷土資料館の見どころや各施設の学芸員の紹介も掲載されており、従来の古生物関連の普及本とは異なる構成となっている。

本書を読んで、46種の古脊椎動物が北海道各地で発見されていることに、改めて驚く。その化石一つ一つに、化石発見、発掘、クリーニング、同定などの研究などで、多くの人々の援助や協力があつたことが思い浮かばれる。北海道各地の博物館、ミュージアムセンター、記念館、郷土資料館をめぐる、古脊椎動物を実際に見学する旅も一興かと思われる。本書が契機になり、北海道での古脊椎動物の化石研究をする方がさらに増えて、古脊椎動物化石の新しい産地発見や古脊椎動物研究が進展してほしいと願う次第である。古脊椎動物の化石に興味がある会員に本書を推薦する。

（三島弘幸）